

15 不活化ワクチン

# インフルエンザ



## インフルエンザってどんな病気？

インフルエンザウイルスの感染により、高熱、鼻汁、咳、全身倦怠感などの症状が出ます。A/H1N1型、A/H3N2型、B型のウイルスは毎年少しずつ変異し、流行を引き起こします。

新型インフルエンザ(A/H1N1)は2011年4月1日から通常の季節性インフルエンザに変わりました。



## 2015年度より 4価ワクチンになりました

いままでの季節性インフルエンザワクチンは、A型株が2種類、B型株が1種類含まれた**3価ワクチン**でした。しかし近年のB型ウイルスの流行は、2系統のウイルスが混在していることから、**2015年度より**A型株2種類(H1N1、H3N2)、B型株2種類(山形系統、ビクトリア系統)の4種類が含まれた**4価ワクチン**になりました。

## 接種を受ける時期と間隔は？

### ●対象者

接種は生後6か月から可能ですので、かかりつけ医にご相談ください。なお、呼吸器系、心臓血管系などの持病がある人には特に接種をお勧めします。

### ●回数

13歳未満 2~4週間間隔で2回の皮下注射  
13歳以上 1回または1~4週間間隔で2回の皮下注射

2回接種の場合は、免疫効果を考慮すると4週間あけるといいでしょう。流行期前の毎年10~11月ごろに接種開始することが望ましいと言われています。



## インフルエンザワクチンの副反応は？

●接種部位が赤く腫れたり、発熱、頭痛などの副反応がみられることがあります。

●インフルエンザワクチンには卵の成分が少量含まれています。アレルギー検査などの血液検査で陽性でも卵を食べて異常のない方は、多くの場合は接種を受けることが可能ですが、かかりつけ医にご相談ください。

### ●接種日



(注)

65歳以上の高齢者、60~65歳未満の心臓・肺・腎障害を持つ人は定期接種の対象となります。